

福島明成高等学校学生との座談会

主催：(一社)福島県建設業協会

福島県建設業協会では、建設関係学科に進学した学生を対象に、将来の建設業界への就職に備え、進路希望者の不安解消や理解の増進を図ることにより、雇用のミスマッチの解消や建設業への進路選択者を増加させることを目的に、学生との座談会を開催いたしました。

福島明成高等学校学生との座談会においては、座学として建設業の役割や地元建設企業の技術者の仕事内容（ICT活用の現状と課題など）、社会人に求められる資質などを学び、座談会として学生が抱える建設業への不安や疑問の解消、技術者が今感じている仕事のやりがいや魅力などについて、意見交換を行いました。

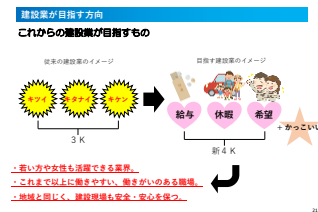
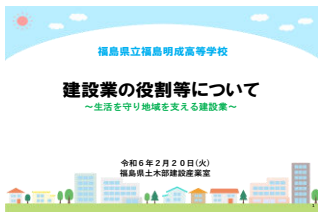
- <日 時> 令和6年2月20日（火） 12:45～14:15
<場 所> 福島明成高等学校 視聴覚室（福島市永井川字北原田1）
<対象学年> 環境土木科 2年生 23名
<コーディネーター> 齋藤 真教諭、志賀 秀登教諭、松原 均教諭
福島県土木部建設産業室1名、(一社)福島県建設業協会3名
<参加企業> 地元建設企業2社 佐藤工業(株)1名、(株)日新土建2名

座学1「建設業の役割など」

講 師：福島県土木部建設産業室 主査 佐藤 有美子 氏

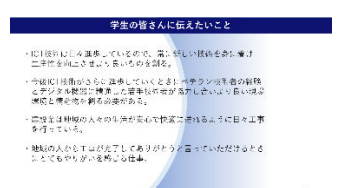


<建設業の役割等について説明>



座学2「建設業への就職に向けて」

- ① ICT活用の現状と課題、今後の展望…佐藤工業(株) 土木本部 土木部 係長 浦山 和也さん
- ②建設業を担う若手技術者に望むこと…(株)日新土建 工事部 部長 大河内 範男さん
- ③新社会人に求められる資質…(株)日新土建 総務部 部長 古山 政行さん



1. 自己紹介

株式会社日新土建
大河内 範男

- 福島県高等学校 農業土木科 卒業（2007年4月～2009年3月）
- 勤続年数は4.3年

2. 建設業を目指した理由

- 4～5歳のころ（昭和42年度）家の近くの田舎114号線の舗装工事があり、毎日のように仕事を覚えている。ローラーに乗せてもらっていた。
- 中学生のころ、同級生114号線のバイパス工事が始まり、工事が進むにつれて変化する地形が記憶にある。
- 高校進学を控え、自然と土木科のある学校へと進み建設業へ就職し就任に至る。

4. 現場環境の改善に向けて

- 1・2階土木施工管理職上の経験手数を30回まで突破。現場、現場代理人に任命されると社内で扱われる。

女性に対する対応（トイレなど）も導入しています！

5. 学生の皆さんへ伝えたいこと

- 工事のほとんどがインフラ整備。工事中は第三者の方へ不便な思いや迷惑を掛けていることがあると罪悪感が完結すると生活が楽になる。
- 多少の苦勞や迷惑の強め方を考え、再成した時の「達成感」がやりがい。
- メンタルトレーニングに繋がることができてほしい。何が一つでもいいので得意なものを得意に言ってもらいたい。

1. 自己紹介

株式会社日新土建
古山 政行

- 安達高等学校 卒業
- 勤続年数は6年3ヶ月

3. 新社会人に求められる資質

伸びる社員の持徳…
「誠実さ」と「責任感」

誠実 = 嘘をつかないこと
 ごまかさないこと

怒られることを恐れ、ミスや遅れはよくあることもあるが、
必ずとなく報告する報告があれば、軌道修正をすることができるとのこと。

4. 学生の皆さんに伝えたいこと

総歩は？ 建設業の高中初任給男女平均は**18万4千円**

休日は？ 年間**101日**（6年加）
 年間**118日**（令和6年度）

仕事量が増え、給料も上がっている

4. 学生の皆さんに伝えたいこと

- 建設業は近年多発している自然災害に対応するため、**地域の人々が安全・安心に暮らせるようインフラ整備にはなくてはならない仕事。**
- 企業も、働く社員の労働環境整備へ向け、ワークライフバランスへの取組、健康経営への取組など働きやすい職場づくりへ向け努力している。

座談会

3班に分かれて、事前に行ったアンケート結果を基に、学生が建設業に対しての疑問や考えを聞きました。

主な質問は以下のとおりです。

Q1 仕事で一番必要な事は何ですか。

A1 一番は挨拶。問題を解決する能力。現場環境は日々変わるので、それに対応できる能力が必要になってくる。

Q2 仕事をしていく上での一番のやりがいは何か。

A2 便利になった、生活が楽になったなど、住民から喜ばれることによる達成感につきます。

Q3 休みが少なく労働時間が長いことや、給料が低いイメージがある。

A3 昔は「きつい」「危険」「汚い」の悪い3Kイメージでしたが、今は「給料が高い」「休日が取れる」「希望が持てる」の良い3Kを業界全体で目指している。当社では、6年前より休暇が17日増え、年間118日となっており、週休2日以上を確保している。建設業の働き方改革で労働時間の削減にも取り組んでいる。給料は、他業種と比べてもかなり上回っている。

<座談会の様子>



<代表生徒の感想>

新社会人に必要なことや仕事のやりがい、業務内容といった建設業の仕事を詳しく知ることができた。この先の進学や就職を考える際のよい参考になった。

<穂積学科長講評>

ここ数年、環境土木科の受験者数が定員に満たない年が続いている。そんな中、生徒から、今年の受験生の数が少なすぎるのではないかとわれ、生徒も関心があるのだと感動した。在学生在が一所懸命に学んでいる姿は中学生にも伝わり受験者数につながる。今回の座談会が、よりよい進路選択の一つになったと思うので新3年生としてがんばってほしい。

